

ブルー・タイ ウインド・アンサンブル 演奏会

2021年7月6日(火)

18:00 開演 [17:30 開場]

洗足学園音楽大学

前田ホール

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

Message

本日はご来場くださりましてありがとうございます。

今回の演奏会は本来ならば昨年で開催されていたはずでした。が、新型コロナウイルスの影響で中止という判断をせざるを得ませんでした。学生にとって、いいえ演奏家にとってお客さまの前で演奏をすることは、練習を何十回する以上の貴重な経験です。今年は皆さまの前で演奏が出来るという目標で練習を積み重ねて参りました。

昨年、演奏するはずであった曲目、指揮者も振っていただく予定でした大澤健一先生です。ぜひとも思い入れのある、熱い音楽をお聴きください。

ブルー・タイ ウインド・アンサンブル
企画運営責任者
渡邊 功



Program

W.H.シューマン／ジョージ・ワシントン・ブリッジ

William Howard Schuman (1910-92) // George Washington Bridge

M.グールド／吹奏楽のためのバラード

Morton Gould (1913-96) // Ballad for band

J.C.バーンズ／パガニーニの主題による幻想変奏曲

James Charles Barnes (b.1949) // Fantasy Variations on a Theme by Niccolò Paganini

Intermission

J.F.A.イベル (編曲：天野正道)／祝典序曲

Jacques François Antoine Ibert (1890-1962) arr. Masamichi Amano // Ouverture de Fête

真島 俊夫／三つのジャポニズム

I. 鶴が舞う II. 雪の川 III. 祭り

Toshio Mashima (1949-2016) // Les Trois Notes du Japon

I .La Danse des Grues II .La Rivière Enneigée III.La Fête du Feu

Program Notes

W.H.シューマン／ジョージ・ワシントン・ブリッジ

この曲の作曲家ウィリアム・ハワード・シューマンは、1910年にニューヨーク市のブルックスで生まれ、アメリカ大統領のウィリアム・ハワード・タフトにちなんで名づけられた。少年時代からヴァイオリンやバンジョーを弾き始めたが、当初は野球に情熱を注いでいた。ハイスクール時代にダンス・バンドを結成し、自らはベース奏者として結婚式などで演奏をしていた。

1928年にニューヨーク大学商学部に入學すると同時に、広告業界で働き始めた。しかし、1930年に実姉オードリーとともにカーネギー・ホールにおいて、アルトゥーロ・トスカニーニ指揮によるニューヨーク・フィルハーモニックの演奏会を聴いて深い感銘を受け、職業作曲家への転身を決意した。

そしてこの曲は、ニューヨークのハドソン川に架かる橋を描いた作品で、ミシガン州学校バンド・オーケストラ協会の委嘱により1950年に作曲された。ニューヨークに生まれ、ニューヨーク大学で学んでいたシューマンは、建設中から毎日のようにこの橋を見ており、通勤で近くを通るようになった橋の印象を一人の人間のように、昼や夜、交通量、通るときの自分の気分によってさまざまな表情を見せる、と述べている。A-B-C-B-Aのアーチ形式で構成され、楽譜は1951年にアメリカのG.シャーマーから出版された。

打楽器 3年 加藤 海夏太

M.グールド／吹奏楽のためのバラード

モートン・グールドは、アメリカ合衆国のピアニスト、作曲家、編曲家、指揮者として知られている。

才能に溢れた音楽家の一人として知られ、ピューリッツァー賞を受賞した作曲家、グラミー賞に輝いた指揮者、そして天才的なピアニストとしてクラシックとポピュラーの両分野で広く知られている。ニューヨーク州に生まれ、最初の作品を出版したのは6歳で、10歳を越えた頃からストコフスキーやトスカニーニが、その作品を取り上げるほど神童だったと言われている。作曲活動も幅広く、クラシック音楽のみならず映画やラジオ、TV、ブロードウェイミュージカルやバレエ音楽を手がけていた。指揮者としても広く活躍し、全米のメジャーなオーケストラのみならずカナダ、メキシコ、ヨーロッパ、オーストリア、日本でも指揮活動を行っていた。

この作品は、静寂の中から始まり、中間部からグールド特有の「ウエスタン」な曲調が垣間見え、また静かな曲調に戻る。

トランペット 2年 池谷 彰恩

J.C.バーンズ／パガニーニの主題による幻想変奏

この曲はアメリカ海兵隊軍楽隊の隊長ジョン・ブージョワの委嘱によりアメリカの作曲家ジェイムズ・バーンズにより1988年に作曲され、その年に開催された音楽教育者全米会議で初演された。ジェイムズ・バーンズは1949年生まれ、アメリカを代表する作曲家の一人であり、米国作曲家作詞家出版社協会やアメリカ吹奏楽指導者協会、その他多くの専門的な組織のメンバーである。作風は様々で難易度が比較的優しい楽曲から、今回演奏する楽曲のように難易度の高い曲や交響曲などもある。

楽曲はイタリアのヴァイオリン奏者パガニーニが、ヴァイオリン独奏のために作曲した「24の奇想曲」の24番「クワジ・プレスト」の旋律を主題とする変奏曲として書かれている。彼は現代でいうポップスター的な存在であり、ヨーロッパ中で演奏した事の無い所がないほどの人気だった。

曲は通常の変奏曲の形式とは異なり、主題の提示の前に序奏があり、序奏、主題と20の変奏により構成されている。海兵隊軍楽隊の高い演奏技術を披露するように、それぞれの変奏に各楽器のソロやセクションをフィーチャーしている楽曲である。

トランペット 3年 溝口 大輔

J.F.A.イベール（編曲：天野正道）／祝典序曲

ジャック・イベールによって1940年に作曲されたこの曲は、皇紀2600年の奉祝曲として作曲された。奉祝曲とは日本の紀元2600年を祝うために、主に欧米諸国に依頼して作曲された曲のことである。1940年2月、特別に結成された「紀元二千六百年奉祝交響楽団」によって、東京歌舞伎座にて初演された。

力強いティンパニと金管楽器の華やかなファンファーレが幕開けを飾り、木管楽器も加えて連符を駆け下る。6/8拍子に切り替わると、まずは低音楽器が旋律を奏でる。続けて旋律は木管楽器に移り、盛り上がり、急速に収束。滑らかな旋律へと移り変わる。6/8拍子の特徴的なリズムが随所に現れ、フィナーレに向けて次第に盛り上がりを見せる。

オーケストラ編成のこの曲を、本日は天野正道氏による吹奏楽編曲版でお送りする。この編曲では原曲のオーケストラを忠実に再現しており、ソプラノサクソフォンをコンサートマスターに迎え、オーケストラの弦楽器の部分を演奏する奏者、管楽器の部分を演奏する奏者に分かれた編成となっている。

オーケストラの弦楽器の音楽とは異なる、管楽器らしい華やかなサウンドである。

打楽器 3年 入江 美咲

真島 俊夫／三つのジャポニズム

この曲は日本を代表する作曲、編曲家の真島俊夫によって書かれた吹奏楽曲である。2001年に東京佼成ウインドオーケストラ第68回定期演奏会において、常任指揮者ダグラス・ボストックの指揮で初演された。また、2003年にスウェーデンで開催された第11回世界吹奏楽大会、またオーストリアで開催されたミッド・ヨーロッパ音楽祭で神奈川大学吹奏楽部によって演奏され、今までとは違う、日本的テイストをもつ楽曲として高い評価を得た。日本的な題材を西洋的技法で表現している。

「鶴が舞う」「雪の川」「祭り」の3曲で構成されており、全日本吹奏楽コンクールなどでも用いられるが、演奏時間の上限という制約のため、曲を短くした演奏であったり、作曲者自身によってコンクール用に再編集した楽譜も発売されているが、本日は全曲を演奏する。

日本的題材が用いられているため、懐かしい雰囲気を持ちながらも、西洋のクラシック音楽で聴いたことあるような表現技法が使われている楽曲である。

トランペット3年 溝口 大輔

Profile

指揮：大澤 健一

国立音楽大学器楽科首席卒業。東京シティ・フィルのチューバ奏者を経て、指揮者フレデリック・フェネルの勧めで指揮者になる。1995年から2019年まで国立音楽大学で教鞭を執り、「くにたちウインズ」では、2005年より15回にわたって定期演奏会を指揮。これまで指揮した吹奏楽のためのオリジナル作品は、すでに100曲以上になる。2002年韓国済州島国際金管フェスティバル、アンサンブル金管部門審査員、2007年、2009年台湾国際バンドフェスティバル、2011年グレインジャー音楽祭、2017年中国・大連、2018年中国・北京での日中友好記念演奏会、など国内外の音楽祭にて指揮者として招聘される。2012年「ハーツ・ウインズ：アルメニアンダンス」などCDを多数収録。これまでに指揮を高階正光、湯浅勇二、クルト・レーデル、フレデリック・フェネルに師事。

現在、桐朋学園短期大学講師。亜細亜大学客員教授。また、2007年に発足したプロ吹奏楽団「ハーツ・ウインズ」の音楽監督。指揮者・編曲者として吹奏楽作品のコンサートやレクチャーを行なっている。



ブルー・タイ ウインド・アンサンブル

Senzoku Gakuen College of Music Blue Tie Wind Ensemble

洗足学園音楽大学では、「演奏の洗足」と掲げ、年間約200回の演奏会を開催。中でも「吹奏楽研究」においてはたいへん力を入れており、4つの吹奏楽団体が企画運営責任教授、指導教員の指導の下、日々研鑽を積んでいる。

1年生だけのフレッシュマン・ウインド・アンサンブルと、其々着用するネクタイの色で呼ばれている上級生バンドのグリーン・タイ ウインド・アンサンブル、ブルー・タイ ウインド・アンサンブル、そして洗足学園音楽大学を代表するフラッグシップバンド、洗足ウインド・シンフォニーの計4つである。

記憶に新しいところでは、2012年第66回ミッドウエスト・バンドクリニックにおいて、ブルー・タイ ウインド・アンサンブルがジェリー・ジャンキン、池上政人各氏指揮の下、大成功を収めた。

ブルー・タイ ウインド・アンサンブルは管打楽器コースの2~4年生で構成され、渡邊功講師が中心になり企画運営している。吹奏楽のオリジナル曲、オーケストラの編曲作品、最新の音楽を区別する事なく積極的に取り入れ意欲的な活動を展開している。



ブルー・タイ ウインド・アンサンブル 前期演奏会メンバー表

Concertmistress

Flute

齋藤 遥
朝日 一輝 金巻 未悠 酒井 瑠菜 清 友菜
田嶋 智翠 筒井 さくら 金子 幸恵 行徳 ほのか

Oboe

Clarinet

鈴木 佑菜 松崎 まり
渡邊 悠乃 奥野 彩
大堀 清楓 齋藤 遥 高橋 祐希 中田 紫乃
長島 太一 北池 莉々夏 佐々木 音美 関田 稜祐
鶴澤 萌* 町田 貴紀* 松本 玲香* 山形 珠慧*

Bassoon

Saxophone

福原 佑紀 鹿山 唯 殿村 和也*
今川 萌 宇座 麻理那 片岡 夏望 木下 佳音
長谷川 莉子 三橋 正長 山口 紗弥季 伊藤 輝瞳
岡本 真尋 久米 愛海 酒井 優希 中條 花音
山中 杏実 加藤 恵莉菜 亀澤 咲葵 山崎 遼介
小秋元 歩 田中 鈴夏 中野渡 真咲 山本 海音

Horn

Trumpet

石垣 静流 伊吹 梓 岡本 桃花 森 猛流
芦川 大樹 宇津木 清来 加藤 早弥乃 錦古里 愛
谷口 諒 細谷 侑生 溝口 大輔 池谷 彰恩
鹿野 円香 鈴木 ころろ 藤原 くるみ
林 剛潤 平野 結梨香 裏木 りりあ 小野 航

Trombone

Euphonium

佐藤 頼星
武田 美智 加藤 千聖 市村 結衣 大島 成実
佐々野 広雅

Tuba

鈴木 湧太 土谷 紗央里 吉海 風龍 吉田 怜生
渡部 陽菜 澤田 翔也 高島 佳樹

Contrabass

Percussion

井上 美冬* 山内 智世歌*
池本 羽奈 鈴木 皓大 吉野 萌 入江 美咲
大塚 愛美 岡澤 七海 金正 紗也加 近藤 寛斗
佐藤 綾香 杉本 裕香 丹 健汰郎 星 陽華
加藤 海夏太 柴田 貴丸 山野 智広 渡邊 拓斗
熊倉 実里*

Harp

企画運営責任者

トレーナー

指導教員

渡邊 功
飯吉 高
泉 真由 前田 綾子 田淵 哲也 宮村 和宏
有馬 理絵 飯島 泉 中村 めぐみ 中田 小弥香
皆神 陽太 貝沼 拓実 田村 真寛 勝俣 泰
小林 祐治 久永 重明 中山 隆崇 林 辰則
池上 亘 小田桐 寛之 府川 雪野 岩黒 綾乃
福田 昌範 小倉 貞行 秋田 孝訓 石井 喜久子
小川 佳津子 目等 貴士

アカデミックコーディネーター

インスペクター

星野 均
朝日 一輝 小秋元 歩 高橋 芽生

*演奏補助要員